

インドにおける Baby Box / ゆりかごに預けられる子供たちに関する現状と問題点

サンジャ バーラ (デリー児童福祉議会 理事)

- イントロダクション
- 紹介するプログラムの必要性
- ゆりかごのコンセプト
- インドの状況のまとめ
- 養子縁組手順
- 合法的な養子縁組の必要性
- 統計

インドにおける Baby Box / ゆりかごに預けられる子供たちに関する現状と問題点

デリー児童福祉協議会は 1978 年から養子縁組と社会福祉の分野に携わり、それ以降、アラームシステムをつけたゆりかごを家の外に置くというコンセプトは続けられてきました。

インドにおいては女性による幼児殺害がはびこっており、何人かの望まれない子供たちが病院や公園などのそばで捨てられているのが発見されているため、Baby Box は必要だと分かりました。社会的な汚名と経済的な圧迫のために、たくさんの子供たちが捨てられています。

ゆりかごを施設の外に置くというコンセプトは、親が危険な場所に子供を捨てずに、安全な避難所や保護、ケアが受けられる DCCW (パルナ) のような家に子供を置くことを奨励するために始められました。そして、最終的には子供たちはある夫婦 (主に子供のいない進歩的な態度と考え方をもつ夫婦) に養子に出されます。

インドにおいては、安全と継続性を確実にするために厳格な法律が定められ、時代の変化に応じて修正されてきました。もともと養子縁組はヒンズー教徒のみに認められていました。他宗教の夫婦は養子をとることはできず、法的な後見人として子供を引き取ることができるのみでした。18 歳以上になると夫婦も子供もお互いに何の責任もなく、子供には何の拘束するものも安全もないため、このような他宗教の夫婦は子供の後見人でしかないことを良く思っていないませんでした。したがって、何年かの考慮のあと、2015 年について青少年法 (Juvenile Justice Act) が制定され、全ての個人 (未婚・既婚問わず) が法的に養子をとれるようになりました。養子縁組における宗教はもう関係なくなりました。

養子縁組の手順：

ゆりかごに預けられた子供は全員、誘拐や行方不明の子供ではないことを保証するシステムを通過する必要があります。完全な検証の後に、児童福祉委員会がその子供が法的に養子縁組可能であると宣言し (証明書が発行される)、ここで初めて子供は適切で自発的にそれを求めている家族に養子に出されます。

子供を家族のもとへ送る前に、その夫婦の徹底的な調査（その動機、教育、家族背景）が有能な資格を持ったプロのソーシャルワーカーによって行われます。

パルナ (Palna) は新生児から 8 歳児までの捨て子たちのための家です。全ての基本的なニーズがケアされるため、この家は子供に必要なかつやさしいインフラやスタッフを備えています。子供たちのケアのために常勤の医師、非常勤のカウンセラー、看護師（常勤）および介護者（常勤）がいます。さらに、常勤のカウンセラーや家の清潔さ／衛生を保証するスーパーバイザーを雇います。彼女は子供の食事／食料および衣服の世話をする必要があります。また、必要な衣服を縫ったり、繕ったりする縫製婦もいます。理学療法士（常勤）も任命されます。身体的／精神的に障害を持った子供たちも何回か捨てられたため、これは必要です。この子供たちは養子にはいかず、最終的には専門の施設に送られます。

また、よちよち歩きの子とそれ以上の年齢の子供たちのために、特別教育者と資格を持った常勤教師が任命されます。上記の全てのスタッフは子供たちの一人の人間としての発達に必須です。

統計：

インドにおいて養子縁組は中央に集まっていて、国内で一年に行われる養子縁組の数は 3000 件です。政府は手続きを簡略化することで養子縁組をもっと奨励しようと取り組んでいます。デリー児童福祉協議会には 1978 年以降 4000 人ほどの子供が預けられました。

住所：

Delhi Council for Child Welfare
Qudsia Bagh, Yamuna Marg, Civil Lines
Delh - 110054
01123968907, 23944655
EMAIL: delhi.council@gmail.com